

令和7年度の研究報告（2か年計画：1年目）

長崎県立希望が丘高等特別支援学校

1 研究テーマ 「軽度知的障害のある生徒に対する自立活動の在り方」

～ 協働によるシステム構築と自立活動ヒント集作成を通して ～

2 研究の背景と目的

近年、特別支援教育を受ける児童生徒数は増加傾向にあり、障害のある生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実が求められている。第二期長崎県特別支援教育推進基本計画においても、「生きる力」の育成を目指し、自立や社会参加に向けた自立活動の充実が重要な柱として示されている。

本校では、令和3年度より帰りの SHR 前に「自立活動の時間における指導（10分）」を設定し、令和6年度からは週1回「自立活動の時間における指導（20分）」を導入してきた。しかし、教職員からは「何を指導すればよいか分からない」「学級で行っているため、個々のニーズに合った指導になっているか不安である」といった声が多く聞かれ、自立活動の指導内容や方法について、教職員全体で共有・検討する場が十分とは言えない状況が見られた。

そこで本研究では、語ろう会や自立活動グループワーク（以降、自立活動 GW と表記）などの協働的な取組を通して、自立活動の課題や指導の在り方を整理し、本校の実情に即した自立活動の指導体制を構築することを目的とした。

3 研究仮説

語ろう会を通じて自立活動の指導に係る課題や指導の在り方を検討し、「自立活動の時間における指導（10分・20分）」の利点や課題を整理することで、本校の実情に即した自立活動の指導体制（自立活動ヒント集や教育課程の整理等）が明確になるであろう。また、自立活動 GW を通して教職員の理解を深めることで、今後の授業改善につながると期待される。

4 研究方法

本研究は、次の三つの柱に基づいて実施した。

- ① 自立活動における課題の共有と整理【語ろう会】
- ② 自立活動における指導力の向上【自立活動 GW、研修会】
- ③ 「自立活動の時間における指導」の整備・充実【課題別グループ学習】

具体的には、語ろう会の実施、発達障害に関する研修会の実施、自立活動 GW の設定、「自立活動の時間における指導（10分・20分）」の検証を行った。また、課題別グループ学習については、語ろう会で是非や課題を検討した上で、3年生において試行的に実施・検証を行った。

5 研究の実際と結果

（1）語ろう会の実施

語ろう会では、職員を複数学年混合のグループに分け、「自立活動の時間における指導（10分・20分）」や課題別グループ学習の構想等について協議を行った。その結果、学級間で取組や意識に差があることや、他学級の実践を共有する必要性が明らかとなった。

また、課題別グループ学習については、生徒に適した指導形態として期待する声がある一方、未実施であることによる不安や課題も確認された。

(2) 研修会の実施

神経発達症の特性や思春期の発達障害への理解に関する研修会を実施した。研修会を通して、生徒の行動の背景を捉えた支援の重要性について理解が深まり、自立活動の指導に生かす視点を獲得することができた。

(3) 自立活動 GW の取組

自立活動 GW では、検討会を従来の少人数から学年全体での実施へと再編成した。これにより、複数の視点から生徒の課題を捉えることが可能となり、課題や指導方針の共通理解を図る上で有効であった。

(4) 課題別グループ学習の試行的実施（3年生）

課題別グループ学習は、本校として初めての取組であり、3年生において試行的に実施した。事前に生徒の課題や目標を学年内で共有し、指導内容や評価方法について共通理解を図った上で実施した結果、生徒アンケート・職員アンケートともに、取組のしやすさや生徒の意欲的な様子が確認された。

6 考察

語ろう会や自立活動 GW を通して、教職員間で自立活動の意義を再確認し、課題を共有することができた点は大きな成果であると考ええる。また、課題別グループ学習の試行により、生徒が自身の課題に近い仲間と学習することの有効性が示唆された。

一方で、生徒自身が自らの課題を十分に理解できていない点や、教材作成・成果物の管理、教育課程との整合といった課題も明らかになった。

7 今年度の成果と課題

【成果】

- ・自立活動に関する課題の抽出と共有
- ・発達障害及び ASD に関する理解の深化
- ・自立活動 GW の再編成
- ・課題別グループ学習の試行的実施と検証

【課題】

- ・生徒自身の課題理解の促進
- ・学級間での取組や意識の差
- ・成果物の保存・管理体制
- ・課題別グループ学習に関する共通理解とマニュアル化
- ・教育課程上の位置付けの再検討（校外実習等と重なることが多い水曜日・時間目の自立活動）

8 次年度の研究の方向性（2年目）

今年度の実践を踏まえ、次年度は、①自立面談の実施による生徒の課題理解の促進、②学年共通教材の作成、③成果物の保存・管理体制の構築を進める。また、2・3年生を対象として課題別グループ学習を本格実施し、グループ編成や評価に関するマニュアルを整備するとともに、語ろう会を継続し、自立活動の充実を図っていく。